

山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

人口ビジョン

<育てる力>集中創生戦略（2015～2019年度の5年間）

中長期展望（2060年を視野）

基本目標（数値目標、2019年）

主な重要業績評価指標（KPI※）

具体的な施策

I 山武市の人口の状況分析

- 2060年の総人口は23,402人。（2010年56,089人、41.7%に減少）
- 高齢化率は、2010年25.4%から2060年48.5%まで上昇
- 2014年の合計特殊出生率は、国1.42に対して1.10（県は1.32）

II 人口の将来展望

◆目指すべき将来の方向

①人口減少問題に取り組む基本的視点

- 若者を中心に住むことに誇りを持てるまちづくり
- 若い世代の希望がかなう生活環境基盤等の整備
- 健康で暮らせる地域コミュニティの形成

②目指すべき将来の方向性

- 他地域への就職や都市部への進学によって転出せざるを得ない若い世代が、再び生まれ育った山武市に誇りを持って戻ることが重要。
- 転入で新たに市民になる方も、山武市を愛して、地域に貢献したいという意識を持てる必要がある。

③山武市の将来人口（2060年の人口を試算）

- 出生率
 - 2020年に1.60、2030年に1.80、2040年に2.07（国準拠）と仮定
- 社会移動
 - 上記出生率で現状推移：29,129人
 - 加えて、2020年から2025年の間に、20代の社会移動が改善（社会移動が半減）：30,919人

1 地域の魅力と誇りの創生 [シティプライド]

- ◆年間観光客入込数
2,076千人(H26)→2,200千人(H31)
- ◆転入転出者数
△391人(H26)→△150人(H31)

オリンピック・パラリンピック事業実施数（累計）
1件(H26)→18件(H31)

市民活動や地域活動をするための活動の場（施設）の新規整備数（累計）
—施設(H26)→2施設(H31)

NPO法人、市民活動・ボランティア団体数
168団体(H26)→170団体(H31)

基幹バスの年間利用者数
41,369人(H26)→41,000人(H31)

乗合タクシーの年間利用者数
51,036人(H26)→51,000人(H31)

1-1 オリンピック・パラリンピックを契機とした交流プログラムやスポーツツーリズムの振興等による地域の魅力創出

- ①オリンピック・パラリンピック事業の実施
- ②国際交流組織の設立
- ③ダンス事業を基軸としたスポーツによる賑わい創出

1-2 「小さな拠点」を形成する地域コミュニティの担い手育成

- ①「小さな拠点」の形成を目指した市民活動施設の整備
- ②市民活動の活性化によるまちづくり

2 グローバル人材を育てる力の創生 [教育]

- ◆英語検定4級以上を取得している中学生の割合
13.9% (H26) → 50.0% (H31)

外国語コミュニケーション講座への参加者数（累計）
—人(H26)→250人(H31)

海外派遣事業応募者数（累計）
26人(H26)→220人(H31)

2-1 幼児期から一貫した英語教育によるグローバル人材の育成

- ①青少年の外国語学習機会の確保
- ②市内高校を地域で支える体制づくり

2-2 スリランカ等との国際交流機会の増大によるグローバル人材の育成

- ①スリランカ等との交流
- ②高校への海外留学生受入支援
- ③国際交流組織の設立（再掲）

3 出産・子育て支援及び高齢者福祉の担い手を育てる力の創生 [医療・福祉]

- ◆合計特殊出生率
1.10 (H26) → 1.60 (H31)
- ◆65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに生活している高齢者の割合
95.9% (H26) → 96.9% (H31)

松尾高校との連携等事業数
1件(H26)→3件(H31)

各種子育て相談延べ件数
842件(H26)→1,000件(H31)

市内産科医師数
1名(H26)→4名(H31)

3-1 松尾高校SGHと連携した世界的な高齢者福祉モデル地区とするための人材育成の支援

- ①松尾高校SGHへの支援
- ②城西国際大学と連携した市内高校のキャリア教育支援
- ③市内事業者へのEPAによる看護・介護人材の受入支援

3-2 安心して子育てできる環境づくりと産科医をはじめとする地域医療を支える人材の育成・確保

- ①安心して子育てできる環境づくり
- ②地域で安心して産み育てられる環境の充実

4 地域経済を育てる力の創生 [産業、成田空港経済圏]

- ◆市内事業所従業者数
15,346人(H26)→15,500人(H31)
- ◆従業員一人当たりの製造品出荷額等（4人以上事業所）
3,552万円(H26)→3,560万円(H31)

エコノミックガーデニングの研究テーマ数
—件(H26)→8件(H31)

成田空港圏での共同事業数
3件(H26)→7件(H31)

年間観光客入込数（再掲）
2,076千人(H26)→2,200千人(H31)

4-1 エコノミックガーデニングによる市内中小企業・小規模事業者の育成

- ①エコノミックガーデニングの推進
- ②農商工連携を基軸とした産業の振興

4-2 地域間連携を通じた成田空港経済圏の形成

- ①成田空港を核とした地域の繁栄
- ②インバウンド需要を取り込んだ着地型観光の推進
- ③成田空港等に必要の人材の育成